

かみす

Pick up

▶新型コロナウイルス感染症に関する
相談・受診方法

まちの魅力再発見



港のパイロット

巨大な貨物船を導く水先人

そびえ立つオレンジの建造物、これは巨大貨物船の船体です。波がうねる鹿島港沖で、小型船から巨大貨物船へ、縄はしごを登って乗り込んでいるのがパイロット（水先人）です。鹿島港を熟知したパイロットは、巨大貨物船に乗り込み船長をサポートして、安全で効率的な入出港を行っています。鹿島港を支えるパイロットに迫ります。

AR 広報かみすが
動き出す



[COCOAR2]



アプリをダウンロードし
表紙にスマートフォンを
かざしてください。
詳細は10ページ



港のパイロット

巨大な貨物船を導く

水先人

港のパイロット(水先人)は、船乗りたちの尊敬と憧れを一身に集める存在です。しかし、どのような役割を担っているのか、一般にはあまり知られていません。今回は、巨大貨物船が行き交う鹿島港で活躍する水先人に迫ります。

船の上で船長にアドバイス

雄大な大海原と、見渡す限りの工場群。圧巻のスケールを誇る鹿島臨海工業地帯には約170社の企業が集まっています。その中心にある鹿島港は、原材料や製品の海上輸送基地であり、物流の一大拠点です。鉄鉱石、原油、石炭、鋼材、化学製品、穀物、木材などを満載した船が行き交い、2018年の取扱貨物量は全国15位の5969万トンにのびります。

大きな港には世界中から船がやって来ますが、どれほど優秀な船長でもすべての港や水域の状況を把握することはできません。そのため、その水域の事情を知り尽くした専門家「パイロット(水先人)」が必要となります。

水先人は船長の求めに応じて船に乗り込み、船長の



鹿島水先区水先人会事務所

アドバイザーとして船が安全に入港・出港するための仕事をします。港が混み合う時に、いかに効率よく船を導くかも重要な役割です。

ところで、パイロットというと飛行機の操縦士が思い浮かびますが、実は飛行機の登場よりもずっと昔から、水先人はパイロットと呼ばれてきました。

水域のあらゆる状況を知る

水先人の仕事について教えてもらおうと、鹿島水先区水先人会を訪ねました。話を聞かせてくれたのは、会長の石川次郎さん。石川さんは(株)商船三井で外航船の船長を務めた後、水先人となって9年目です。まず、どのような知識が必要とされるのか聞いてみました。

「一般的な船長や航海士の知識に加え、地形、水深、特徴的な気象状況、岸壁の長さ・角度・企業の配置、さらに鹿島港で自主的に設けたルー



水先人が鹿島港へ巨大な貨物船「アイリス ヴィクトリア」を導く



庄巻のスケールを誇る鹿島港。貨物船は外洋で入港の時間を待つ



鹿島埠頭(株)のタグボート「やみぞ」



タグボートに乗り込む水先人

ルなど、鹿島水先区に関するあらゆる知識が求められます。鹿島港の周りは漁船が多いので、季節ごとの漁の知識も必要です」

目に見えない海の中や海の底まで把握していることに驚きました。では水先業務をする上で、鹿島港ならではの難しさはあるのでしょうか？

「港の中は静かでも、外洋に出ると時化^{しげ}していたり霧で視界が悪かったりすることが珍しくありません。また鹿島港の場合、中央水路は幅が600メートルありますが、南水路と北水路は半分の300メートルです。その両岸に船が着いているところで自分の乗った船を方向転換しようとする、前も後ろも余裕がないので緊張しますね」

タグボートは重要なパートナー

水先人にとって欠かせないパートナーはタグボート。船は港に近づくとスピードを落としますが、低速になると舵^{かじ}が効きにくく動きを制御するのが難しくなるため、タグボートの助けが必要となります。

「水先業務は一人でやるわけではなく、タグボートとの連携が非常に重要です。タグボートを使って船を



水先人の仕事道具

双眼鏡、小型GPS、トランシーバー

を見ただけで船長が誰か分かるくらい(笑)、いつもコミュニケーションをとっています。ですから、とても仕事がいやしいですね」

小さい船ならタグボート1隻でコントロールできますが、7万総トン以上の大型船ともなると4隻が出動するとのこと。船の大きさや風の強さなどを計算し、水先人が隻数を決めるそうです。

笑顔で接する「無冠の外交官」

いろいろと教わるうち、石川さんから意外なエピソードが聞けました。船に乗り込むとき、「口角を上げてニコニコして行きなさい」と先輩に



石川会長

回したり、止めたり、横に押して岸壁に着けたりします。タグボート業務をする鹿島埠頭(株)の皆さんとは顔見知りで、タグボートの使い方



激しく揺れる海の真ん中で水先人が一段一段登っていく

海上で貨物船に乗り移るまで



水先人がタグボートに乗船



水先人が待機する部屋



乗組員のサポートを受け水先人が縄ばしごに手を掛ける



タグボートの船首のタイヤを船に接触させる



鹿島港を出て約30分。
貨物船「アイリス ヴィクトリア」をとらえる

よく指導されたのだそう。一体なぜでしょう？

「第一印象を良くするため、まず大きい声であいさつをします。船長や乗組員に安心して協力してもらえよう、和やかな雰囲気づくりも仕事のうち。良好な関係が、安全航行には一番大事だと思っています」

例えば、ブラジルで穀物や鉄鉱石を積んだ船は、地球を半周して約40日かけて鹿島港にやってきます。水先人は外国船の乗組員が最初に接する日本人であり、日本の印象を左右する存在。だからこそ「無冠の外交官」とも称されるのです。

海の真ん中で船に乗り移る

次はいよいよタグボート「やみぞ」に乗船。船長の河野昌行（かわの まさゆき）さんは、この道30年のベテランです。まず、タグボート基地を出航し、水先人を迎えに行きます。船長と乗組員が、ビシッと背筋を伸ばして水先人が待機するための部屋があり、入室するとさっそく真剣な表情で資料に目を通し始めました。

ここから目的の貨物船「アイリス ヴィクトリア」が待機している鹿島

港沖まで、30分ほど航行します。この日はあいにくの雨と強風。

港内は穏やかでしたが、外洋に出ると状況が一変。波しぶきで前が見えないほど海が荒れていました。

やがて貨物船が見え、タグボートがぐんぐん接近していき、並走したのち船に接触。緩衝材のタイヤが、鈍い音をたてます。船を見上げると、押しつぶされそうな圧迫感。その船からパイロットラダー（縄ばしご）が下ろされます。河野船長は並走しながらタグボートを船にピッタリ着けて動かないよう操船し、乗組員は水先人が無事に縄ばしごを登れるよう両手を広げてサポート。水先人が一段一段登っていきます。海の真ん中で動いている船に乗り移る作業は、まさに命がけです。

水先人は港のプロフェッショナル

水先人は貨物船に乗船するとただちに操舵室へ行き、船長に港や操船方法などの情報をまとめた書類を渡し、アドバイスを開始します。

鹿島港内に入るとタグボートから



河野船長



①「アイリス ヴィクトリア」に乗り込んだ水先人が鹿島港へ導く ②貨物船とタグボートをロープでつなぐ ③貨物船の進路を調整する ④貨物船を接岸させるため、水先人が指示を出し側面からタグボートで船体を押す ⑤任務を終えた水先人は、再びタグボートで陸へ送られる

貨物船にロープを渡し、ときおり右に左にロープを引っ張って進路を調整。岸壁に近づくと船の横側に回り込み、タグボートで船体を押しします。轟音をあげるエンジン。秒速5センチ以下でじわじわと動く貨物船。もしスピードが早過ぎたり、岸壁に斜めに着けたりすると、船体や岸壁の損傷につながり、その影響は計り知れません。全神経を集中して貨物船とタグボートに矢継ぎ早に指示を出し、約1時間かけて着岸。水先人が

最も緊張する瞬間です。

無事に任務を果たした水先人は、再びタグボートに戻ります。しかし、これで一日の仕事が終わるわけではありません。このような過酷な水先業務を、平均して一日に3回、多い日は6回も繰り返すといえます。

水先人の仕事を最も間近で見続けてきた河野船長の「水先人は港のプロフェッショナルです」という言葉が重く響きました。300メートル級の巨大貨物船を着岸させる技術力

や判断力、命に関わる危険な仕事を日々淡々とこなす精神力への、畏敬の念が感じられます。

日本の物流を支えるプライド

鹿島港で水先人として働くやりがい、石川さんは次のように話します。

「鹿島港に荷揚げされた原材料が製品化され、国内だけでなく海外へも輸出されていきます。また皆さんが食べる小麦・トウモロコシ・大豆などの穀物や、畜産用の飼料も、鹿

島港が輸入の玄関口。その物流を絶対に止めてはならないという気持ちで、安全な入出港を支えるのが最大のやりがいです」

もし原材料がスムーズに入らなければ工場が止まり、私たちの生活はもとより日本経済にも打撃となります。そのため水先人は年末年始も休まず、早朝5時半から夜9時まで水先業務を行なっています。

最後に市民の皆さんへのメッセージを伺いました。「私たちの仕事は、地元の皆さんにもほとんど知られていません。最大の理由は、貨物船を間近に見る機会がないからだと思うんです。例えば、鹿島港を一周する遊覧船『ユーリカ』に乗れば、巨大貨物船の迫力とともに、海上輸送の規模の大きさを実感できるでしょう。港にはさまざまな仕事があることを知り、興味を持っていただけたらうれしいですね」

鹿島港には、まだ私たちが知らないワクワクするような驚きと発見が潜んでいるようです。

*鹿島水先区水先人会のあるエリアは、関係者以外の方の立ち入りが禁じられています

*鹿島港内遊覧船「ユーリカ」は、新型コロナウイルス感染症の影響により運休しています。再開にあたっては鹿島埠頭株ホームページなどでご案内します